

県民総ぐるみ教育推進研修会（宮崎地区）事例インタビュー

宮崎東地区の実践事例（宮崎市）

～地域と学校とが一緒になって育てる「江平っ子」～

取材日：令和2年11月13日（金）

聞き手：中部教育事務所 築地原連携推進アドバイザー

回 答：宮崎市立江平小学校	学校支援コーディネーター	藤本 エミ子 氏
	校 長	河野 康男 氏
	主幹教諭	江藤 彰一 氏
中央東まちづくり推進委員会 委員長		太田 修子 氏

文責：中部教育事務所

Q1 江平小学校における地域と連携・協働した活動にはどのようなものがあるのでしょうか。

（江藤）中央東まちづくり推進委員会と一緒にやるものは、4年生と地区の方と一緒にする防災訓練としてのDI G訓練や、登下校の見守り活動があります。社会福祉協議会と協力して行う福祉体験学習や、地域の方をお呼びして1年生と行うふれあい活動等があります。また、学習支援として、6月に行ったミシン学習の保護者等のボランティアによる補助や町探検の引率等があります。他に休日も行っている放課後子供教室があります。

（太田）防災訓練は、4年目になります。江平地区の中央東まちづくり推進委員会では、子供たちの安全も大事ということで、登下校時の安全も含めた図上訓練から始まりました。

（江藤）学校と地区との合同の避難訓練はまだしていません。しかし、将来的には合同の避難訓練も考えていけないと思います。

（藤本）学習支援ということで、読み聞かせも行っています。また福祉学習で疑似体験をする時に、3年生では脱ぎ着が大変なので、着せる器具等の着脱のお世話をしました。このことで子供たちは時間内にみんなが体験することができました。ボランティアをした方々は、疑似体験を見たことがなかったので、活動することをとおして、高齢者の方の大変さも分かり、より優しく接するようになったと言っておられました。昨年度、福祉体験のボランティアに来てくださった方が、その大変さが分かっていたので、今年も来ていただきました。

このような活動をとおして、ボランティア同士の広がりが出てきています。親同士が知り合いになり、そのことにより親同士の広がりも出ています。ミシン学習の支援にも来ていただいた方が、自分たちで道具も準備して下さっていました。

（太田）育成会の中に「ぼくと隊」（親父の会）があり、そこが子供たちのために、子ども会のキャンプにおいて、宝探しや肝試し等自分たちで内容を考えて行っています。

地区の方々にボランティアを頼みますが、高齢者の方は学校に来るのが久しぶりで楽しいと思っておられます。子供たちと一緒に活動すると、子供たちからパワーをもらえるからものすごく楽しいとおっしゃいます。地区の方は、学校に入りたいけど、何かないと学校には入りにくいので、学校の活動の手伝いを楽しみにいらっやいます。活動の手伝いが生きがいづくりにもなっています。

（江藤）防災訓練における引き渡し訓練については、昨年度は実施しましたが、今年では実施できていません。6月に予定してはいたのですが新型コロナの関係でできませんでした。

（太田）まちづくり推進委員の方で、「中央東お宝マップ」を子供たちの意見を取り入れて作りました。これからもいろいろと内容を追加していく予定です。できあがったものを学習の中にどう具体化していくかが難しかったです。

(江藤) 今年の授業では、「中央東お宝マップ」を使っていません。

(校長) 新型コロナの関係で授業時数がカットされ、そのことによる時数確保のため、新しいもの(学習)を組み入れるというのはなかなか厳しい状況でした。教務主任もかなり頭を使っています。

(校長) 新たな取組として、教室や保健室に入れない別室登校の児童に対して、送り迎えやそばにいて支えてくれるボランティアの方について、藤本コーディネーターや太田まちづくり推進委員長に相談しました。人間性がある、守秘義務を守る、信頼ができる方の紹介というかなりハードルの高い依頼でありましたが、地区のことをよく知っている、またこの趣旨を理解してくださる二人であったので頼めました。

推薦していただいた方には、9月より週2日、2時間ボランティアとして活動してもらっています。該当の児童は、いつも同じ人が対応してくれるということで、安心感をもって学校で過ごしています。お二人には、非常に良い方を紹介していただいて助かっています。

Q2それぞれの学年の活動に協力してくださっている地域のボランティアの方々には、どのように依頼を行うのでしょうか。

(江藤) 基本的には学年の先生が、藤本さんに連絡をします。そして、藤本さんがまとめ役になって地区のボランティアに依頼をしています。

Q3 藤本さんは、具体的にはどのように地域の方に依頼をされているのでしょうか。

(藤本) 学年の先生から受けた内容について、先生と連絡を密に取り、場所はどこか、どういうボランティアが必要か等を話し合います。依頼をするに当たってどこに電話をしたらいいのか等分からないことがある時は、校長先生や教頭先生方にも相談しています。昨年度と同じ時は、昨年度頼んだところに連絡をしています。

Q4 これまでにないような新しい活動や、リストだけでは対応できないようなことがあるのではないのでしょうか。そのような場合はどのようにされるのでしょうか。

(藤本) 地区のことに限定すると、太田さんが一番分かります。特に今年度は新型コロナの関係で行事等が例年度どおりには行かないことが多いです。1年生のふれあい活動では、人数や遊びの種類の制限がありました。例年自治会長さんに、参加してくださる方の名簿の集約等をお願いしていますが、今年はどう進めていいか迷い、校長先生や太田さんに相談しました。地区のことで太田さんに尋ねると何でも答えてくれるし、いろいろな意見も出してくださいます。そのことで問題も解決します。近くに頼りになる人がいて心強いです。

Q5 中央東まちづくり推進委員会の太田さんは、どのように地域の方と連絡を取っているのでしょうか。

(太田) 地区に長く住んでいると、多くの方を知るようになります。スポーツ団体や地区交流センターの方、地区の民生委員の方等を把握していてつながりもあります。藤本さんから依頼があったらどの方を紹介したら良いかが分かります。だから依頼内容に応じて声かけをしています。

(江藤) 先生方からの活動内容等を記した依頼カードのようなものはありませんが、依頼をする時、連絡を密にして目的等を確認しています。

(藤本) ボランティア募集は文書で行いました。今年は新型コロナの関係で増えてはいませんが、頼むとすぐに来てくださるし、いつでも手伝いますと依頼を待っている方がおられます。

(校長) ボランティア活動の解禁ができませんでした。9月以降からの活動になりました。ボランティア募集をする時、ボランティア活動をしますという返事が必ず返ってきます。

(藤本) 活動が始まり、先生方から依頼があったら、校長先生にどのくらいの人数のボランティアの方が必要なの

か尋ねました。多くの方が来ることで、かえって学校やボランティアの方にご迷惑をかけるといけないからです。今年度はよく校長先生や教頭先生、江藤先生に細かなところまで相談をさせてもらっています。

(太田) ボランティアの声かけて困っていることはありません。みんな快く引き受けてくれます。ただ高齢者が多いので、今年は新型コロナが怖いという方が多くいらっしゃいます。しかし、学校で行われるものは、十分に練られていて大丈夫ということで行われる行事なので、安心して参加ができています。地域で行われる行事は、新型コロナが怖いということで参加しない人がいらっしゃいますが、学校で行われるものは喜んで参加しておられます。学校側は十分な新型コロナ対策をしているから大丈夫ということが分かっておられるからです。自分が通った学校、子供を行かせた学校ということで、皆さん学校に行ってみたいという気持ちをもっています。昔からここに住んでいらっしゃる方も多いです。

(江藤) ミシン学習の支援に来てくださった方が、楽しかったと言っておられました。それを聞き、地区の方の学校や子どもへの愛情を感じました。子供たちがボランティアの方にお礼も述べていました。

(校長) ミシン学習の支援をしてくださった方に、教室の前を通られた時走り寄って「ありがとうございました。」と言ったり、授業後帰られる時に後を追いかけて「ありがとうございました。」と言ったりする児童がいました。うれしかったという気持ちを表現し、伝えることができていました。支援された方もうれしかったと言われ、それぞれウインウインの関係ができていたなと思いました。

(藤本) 先生方から、ミシン学習の支援でお礼を言われました。それは、ミシン学習の支援ボランティアがついたことにより、苦手な子への支援もしていただき、そのことで一斉に同じように授業を進めることが可能になり、早く学習を終えることができたからです。そのおかげで、特に4、5月にできなかった分の学習をスピードを上げて進めることができましたということでした。

Q6 江平地区には、「中央東まちづくり推進委員会」のような組織がありますが、江平小以外の他の地区にもそのような組織はあるのでしょうか。

(太田) どのまちづくり推進委員会も一生懸命に活動をしています。現在市内には27団体あり、どこも学校と連携を取りながら活動をしています。この中央東地区は、長く広い地域で商店街があり、まとめるのが大変です。そこでどうにかしないといけないということで、江平小、宮崎小校区に分かれたり、合同になったりしながらまちづくりの活動をしています。防災訓練では、宮崎小の子供たちをこちらに連れてくるわけにもいかないので、別々に実施しています。

他のまちづくり推進委員会とは、年2回情報交換をしています。それぞれ地区の特性がありますが、大体似たような行事を行っています。山がある所は山の仕事を、畑がある所は畑の仕事を子供たちと一緒にできますが、この地区は山も畑もありません。しかし、それなりに考えて子供たちと活動をしています。来年1月か2月に宮崎小地区と合同で遊歩道の清掃を兼ねて交流を計画しています。ゴミが落ちていたら拾う、草が生えていたら抜くといったことを身に付けて欲しいし、そのことで親も助かります。

Q7 まちづくり推進委員会の中で学校と結びついている部会を、どのまちづくり推進委員会も持っているのでしょうか。

(太田) どの地区のまちづくり推進委員会も学校と密に話し合う部会をもっています。

(藤本) 学校側は、まちづくり推進委員会にどんな部会があるのかわかりません。だからどの活動が学校と一緒にできるのかを分かるとよいので、そのためにもC・S等でみんなが集まって話し合いをしていくと連携した活動も違って来るかと思っています。

(太田) まちづくり推進委員会の学校と関連する部会の中に、江平小と宮崎東中のPTA役員が入っていて、学校

側の要望を聞きながら動いていくようにしています。

まちづくり推進委員会の方には校長先生が入り、その委員会の部会にはPTA役員が入っているので、学校側とスムーズにいくのではないかと考えています。学校側の要望は、ある程度とおっていきのではないかと思います。

Q8 地域と学校とが連携して活動することの良さはどのようなものがあるでしょうか。

(江藤) 地域と学校が連携して活動することで、地域のよりよい成長という視点を共有することができます。学校としては、ミシン学習の支援もそうでしたが教育効果を高めることができ、地域は、子どもが生き生きと活動できる地域づくりにつながると考えます。遊歩道の清掃と学校での黙々清々清掃を関連付けて、同じ清掃を頑張るという視点で連携して進めることができます。また、子供たちが教師、保護者以外の大人と接することで、キャリア教育を推進することができると思います。

(太田) 連携することで、子供たちを知ることになり、そのことにより、登下校の見守りや休みの時の子供たちへの声かけ等ができています。ここは交通事故の多い地区でもあるので、子供たちの安全、健全育成につながっています。そうしたことをしながら、地区の方々には子供たちから元気をもらっています。子供たちの様子をよく話しておられます。子どもと大人がつながっていると感じます。

(校長) こんな話があります。本校はペットボトルのキャップを集めています。5年生の女児が、ある日の登校中、交通指導に立っておられる方と話をしました。学校でキャップを集めていることを女児が話したら、その方は、家にあるから持ってきてここに置いておくと話されました。しかし、女児の授業中でいないのに、ここに置いていてなくなるといけないと思い、学校に来られ、〇〇さんへお願いしますと言ってキャップを届けられました。その方から話を聞くと、その女児は、1年生の時竹とんぼ作りで教えた学級の子で、その時からの顔見知りでも時々声かけ等をしているとのことでした。今薄れかけていますが、絆というものを地区の方も実感し、また子供たちも実感したのではないかと思います。双方向の絆が育っているのではないかと思います。地域の方のそういう姿を子供たちに見せている、子供たちはそういうモデルを見ている、そして将来そういうモデルの人になって欲しいし、おそらくそういうふうになっていくだろうという願いがあります。

Q9 課題としてはどのようなものがあるでしょうか。

(江藤) 連携する際に、いかに目標を共有化していくかが課題です。共有化していくためには密な話し合い等を行うことが必要ですが、先生方は忙しいので十分に話し合う時間の確保等、難しい面があります。時間の確保を解決するために、今は担任ができない部分を藤本さんがうまく動いて連絡等を取ってくださるし、私も時間がある時は連絡を取るようにしています。藤本さんがいなくなった後どのように進めるかについては、ボランティア要請カードみたいなものを作ったりして連携を進めていけないのかなと思っています。

(太田) 子供たちに声をかければ挨拶をしてくれると皆さんおっしゃっておられます。見守りで立っておられる方が夏は暑くならないよう、冬は寒くならないようにしないといけないと思っています。課題と言えば、人間関係です。気の合わない人同士を一緒にすることはできません。

(校長) 人間関係に詳しい方に動いてもらわないといけません。上辺だけ理解している人が声をかけると、後々で難しい問題に発展することもあります。

(藤本) 先生たちは、本当に授業の合間、合間にも仕事をしていらっしゃいます。私が自由に動けるので、休み時間を使って先生と打合せをして、早めに段取りを決めて、段取ったことを先生に渡すようにしています。こういった仕事私がなくなった後、先生方に戻るとというのが課題だと思っています。先生方にこうした仕事が戻らないようにするために、まちづくり推進委員会や社会福祉協議会等お世話になった所と話をし、学校から電話が一本あつたらすぐに内容を理解して、先生方と1,2回の打合せで済むような形で流れていくといいなと思います。今年

は新型コロナの影響で、できるのですかという問合せが何回もあったし、内容の変更の打合せもありました。こうした仕事を先生方がするのは大変だと思っています。私は今年2年目です。他の人の話を聞くと、もう来てくださらないのですかといった声を前いた学校の方から聞くとのことでした。コーディネーターがいなくなった学校では、その仕事が先生方の戻り大変だということでした。

(太田) 一人親家庭や新型コロナ関係で仕事を失った家庭の子供の生活が心配です。ちゃんとご飯を食べているかが心配です。子供たちの状態を見た時、ご飯を食べていない子が分かります。社会的な問題だと思います。江平地区だけの問題ではありません。

(藤本) 江平小では、学校とは切り離して、保護者が子ども食堂を立ち上げました。今年は持ち帰りで行っています。いろんな子が来ますが、教頭先生が配慮してくださり、本当に大変な所に食事が渡るようにしてくださっています。

(校長) 地域では、見えないところで有志の方が善意で困っておられるところに力添えをしてくださっておられます。

Q10 残された期間で、自分がいなくなった後どう活動をどうつなげていけると思っていますか。考えておられることがあったら教えていただけないでしょうか。

(藤本) 社会福祉協議会やまちづくり推進委員会等と協力して活動していて、最近行ったのがDIG訓練です。先生方とまちづくり推進委員会と打合せをしていて、今年は内容が少し変わりましたが、毎年段取りや内容がだいたい決まっています。だから先生方から開催期日等の連絡があったらまちづくり推進委員会の方で、こんなふうにしたらどうですかと提案していただくと先生方は助かるのではないかと思いますので、このような流れを作っておきたいです。まちづくり推進委員会の方でもいろいろな情報をもっていますので、それを逆に学校側も知ることができたらいいと思います。このような流れで次年度は進めてもらえないかということを事務局の方と話ができたらと思っています。

社会福祉協議会にお願いし、福祉体験学習で初めて車椅子バスケットと福祉講話をしていただきました。来年度も同じ体験ができますということだったので、次年度先生方に昨年度はこのようにしましたということを提案していただくよう担当の方に声かけはしました。

(校長) 働き方改革の中で、業務改善と時数確保の問題があります。精選という時に、どこかで調整を図らないといけません。同じ内容を同じ時数とするわけにもいきません。縮小しながら内容も充実させないといけません。どのようにして少ない時数で内容を充実させていくかということについては先生方の理解も必要です。コーディネーターがいなくなった時に、誰かがその業務を担うとなったら動きがとれなくなってしまいます。どの学校も同じ課題をもっています。ただ本校はベースがしっかりしていて情報のやりとりもできています。他の学校が今からそのようなベースを作っていくのは大変ではないかと思っています。

Q11 皆さんからそれぞれ今後の展望について教えていただけないでしょうか。

(江藤) 江平地区は、地域と学校が連携した活動ができています。お互いがウィンウィンの関係になっています。しかしまだ連携してできる活動があるのではないかと思います。コロナ禍で制限はありますが、さらに中央東まちづくり推進委員会と協力して、連携できる活動を増やしていきたいと思っています。

(藤本) できるだけ先生方の仕事が増えないようにして子供たちのそばについていられるようにするために、地域と連携を取るとき簡単にできるようにするための方法を考えていきたいです。そうすることによって先生方が子供たちのそばにいられます。打合せばかりでは大変です。

(太田) 学校だけでなく、地域内にある会社や商店も一致団結すれば、例えば夜の見守りもできるのではないかと思います。皆さんの意見を吸い上げて、みんなで町を盛り上げて、子供たちを見守っていく仕組みを作りたいです。また、この地区には警察署等いろいろな機関があるので、みんなで子供たちのために盛り上がりましょ

うと声を大にして皆さんに言いたいです。そのとりかかりとして、今アンケートをとっています。

(校長) 町場の学校ではありますが、学校と地域の連携した一昔前の姿が本校にはあります。それは地域と学校のつながりの核として、自立したPTA活動があるからだと思います。学校にはPTAが活動する部屋があります。毎週水曜日が活動日で、その日PTAの方々が自主的に集まり、いろいろな活動を行っています。親として学校を支え、そうした方がOBとなり、そのつながりで地域を支えていただいています。そのサイクルが今も引き継がれていることに、感謝しています。